



海の絶滅危惧種「ジュゴン能」

沖縄平家物語

原作・脚本：桜井真樹子

2023



壇ノ浦の闘いに破れた平家の落人たちが、潮の流れに乗って、琉球の島にたどり着いたという伝説がいくつか残されています。物語は、壇ノ浦に沈んだ平家の武者たちと入水自殺をした安徳天皇とザン(ジュゴン)の出会いと別れが展開されます。

演目

I 「沖縄平家物語」前幕

II 幕間・講演動画
「人魚の歌声!?音を使ったジュゴンの生態研究」

III 「沖縄平家物語」後幕

「沖縄平家物語」前幕

壇ノ浦で海底に沈んだ平家の武者たちが、平家カニとなって生まれ変わり、沖縄やんばるの海岸で漁師に出会う。仲間たちは漁師を止め、陸の工事の人足となってゆき、海の友ジュゴンも自分の前に現れなくなり、寂しく海を眺めている漁師に、平家カニたちはジュゴンの居場所を知らせる。ジュゴンは、「やんばるの護岸工事が始まって、南の海に逃げたが、漁師のことを忘れたことはない」と平家のカニに伝言を頼んだ。平家カニたちは、漁師にジュゴンに会いに行こうと言い漁師は舟を漕ぎ出す。

幕間・講演動画

「人魚の歌声!?音を使ったジュゴンの生態研究」
市川光太郎：京都大学フィールド科学教育研究センター

「沖縄平家物語」後幕

8歳の安徳天皇は壇ノ浦で入水する。安徳は沖縄の海の龍宮の王に拾われて、1,000年が経った。安徳にもジュゴンの友達ができ、今年ジュゴンくんが龍宮に遊びに来ない。するとジュゴンの母が安徳を訪れ「息子はやんばるの護岸工事の砂で目を潰され、耳が聞こえなくなりました。今、南の海で療養しています。安徳くんはこの歌を届けてほしいと頼まれて、あなたに会いに来ました」と。安徳は悲しむが、虹の向こうのジュゴンくんのいる海を見つめ、いつかまた遊ぶ日がくることを待ち望む。

遥かなるとききを、ウチナーンチュと海を共にした「ザン(ジュゴン)」。もう一度、ウチナーの海に戻ってきてください。

桜井真樹子



シテ「漁師(前幕)・ジュゴンの母(後幕)」

吉松 章



ワキ「知盛カニ(前幕)・安徳天皇(後幕)」

佐藤 拓



ワキツレ「教経カニ(前幕)」

コバヤシ タカヒデ



ワキツレ「家長カニ(前幕)」

市川 光太郎



アイ狂言(幕間)の講演動画

倉知 誠



ウクレレ(後幕)

新垣 俊道



組踊・歌指導

金城 真次



組踊・振付指導

桜井真樹子 PROFILE

龍笛を芝祐靖に、天宮宗大原流声明を中山玄晋に師事。1997年より、白拍子の復元を始め、「鬢多々良(びんたたら)」「水猿曲(みずのえんきょく)」「蓬萊山(ほうらいざん)」「廻惚(かいこつ)」など、20年に渡り公演を続ける。2007年より創作能「マンハッタン翁」「橘の驅」「岸辺の大臣」「沖縄平家物語」などを発表。2019年よりハイパー能「睡蓮」「投石」「菖蒲冠」を発表する。



登録有形文化財

代々木能舞台

ご予約・お問合わせ
まきこの会 事務局



makicloclub2022@mail.com

